

1 教育目標

(1) よく考え 本気で学ぶ子ども (2) 元気で たくましい子ども (3) 思いやりがあり 助け合う子ども
--

2 学校経営の方針

(1) 新しい時代に必要な資質・能力を身につけさせるという学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導と評価の一体化による「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に努め、「学ぶ喜び」を味わわせる。 (2) 児童の様子を児童・生徒指導、教育相談、特別支援教育の3つの視点から総合的に見取り、関係機関と連携しながら、一人一人の特性に適した支援を行う。 (3) 危機管理の観点から、感染症防止対策に力を入れるとともに、児童の危険回避能力の育成に取り組み、問題行動や事件・事故の予防に努める。 (4) 健康教育の充実を図り、地域・家庭と連携して心身共に健康な児童の育成を図る。 (5) 特別活動や総合的な学習の時間を中心にふるさと学習とキャリア教育を推進し、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを支える人材の育成に努める。 (6) コミュニティスクールの導入に向けて、地域とともにある学校づくりの一層の推進を図る。
--

3 今年度の重点目標

(1) 確かな学びをはぐくむ	①学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の実施 →各教科(国・社・算・理・生・外)の学習が好きな児童 80% ②個々の特性に応じた適切な支援→先生の授業は分かりやすい 80% ③主体的な学習習慣の確立→宿題や自主学習への取組 80%
(2) 豊かな心を育む	①学校・家庭における読書活動の推進→本を読むことが好きな児童 80% ②いじめ等問題行動の未然防止→学校生活が楽しい児童 90% ③自分の生き方を考えさせる指導の充実 →将来の夢やなりたい自分がある児童 80%
(3) 健やかな体を育む	①健康的な生活習慣の確立→実行した児童 80% ②体力運動能力の向上→新体力テストB以上の児童 40% ③安全・防災教育の充実→安全・防犯・防災知識の定着 90%

4 評価表

評価の「A」は優れている、「B」は良い、「C」は改善の余地あり、「D」は要改善

項目	具体的評価指標	自己評価			学校関係者評価	達成状況 成果○と課題▲
		児童	保護者	教職員		
教育課程	①学習指導要領の実現を目指し、児童や学校の実態、保護者や地域の意見要望等を踏まえた創意ある教育課程を編成・実施した。			A	学校評議員	※今年度はコロナ禍の影響により、学校評議員様からの「学校関係者評価」はいただいております。 ○感染症対策のため、外部からの協力を要請できなかったが、手紙のやりとりなどで補いながら取り組むことが出来た。 ▲感染拡大時には、オンラインでの授業が望ましいと思った。(保) ▲コロナの影響のため、授業参観や行事が削減・縮小されたのが残念だった。(保)
学習指導	①「主体的・対話的で深い学び」を実践し、学習意欲を向上させた。 各教科(国・社・算・理・生・外)の学習が好きな児童 80%	B		B	学校評議員	▲コロナ禍の影響もあり、児童同士の意見や考えを交流させることが難しかった。 ▲児童アンケートの結果は、いくつかの教科では肯定的な回答が目標値を超えたが、70%後半の教科が多かった。

学習指導	②指導と評価を一体化した授業の展開により、「分かる授業」が実践できた	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科とも、それぞれの単元計画に沿った（最終的なゴールに向かった）単位時間ごとの「めあて」の設定を児童とともにに行い、「ふりかえり」を実践できた。 ○児童、保護者ともに「授業が分かる」というアンケートの肯定的な回答が90%を超えた。
	③主体的な学習習慣が確立できた。（家庭学習の時間の確保、家庭学習の内容の充実、児童の取り組み状況等） （宿題や自主学習への取組80%）	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ○自主学習の習慣が少しずつ定着してきた。 ○様々な取り組みを通して、児童に自主学習のための適切な課題や方法を提示できた。 ▲内容に個人差があり、より効果的な自主学習の活用についても指導する必要を感じた。
	④読書活動の充実（学校司書との連携、図書室の積極的な利用）と家読の推奨を実施した。 （本を読むことが好きな児童80%）	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ○図書室利用の習慣化等読書に親しむ時間の確保を行った。 ○読書月間等の様々な工夫により、図書室に行くのが楽しくなった。 ○児童アンケートでは「読書が好き」という肯定的な回答が80%を超えた。 ▲一方保護者アンケートでは、肯定的な意見は60%を超える程度にとどまった。 ▲活字、あるいは文章から離れた読み物を借りる児童が多かった。
⑤ H24 から始まった小学校英語教育特区（現 教育課程特例校）の効果について→1・2・3・4年が外国語活動を実施してきたことで外国語活動に対する興味関心、外国語の表現への慣れ親しみ、コミュニケーション能力の育成が十分図られている。	A		A	<ul style="list-style-type: none"> ○栃小教研芳賀支部外国語部会として、本校の取り組みが公開された。他市町に先駆けて取り組んできたことで、外国語に対する緊張感が、全体的に全く感じられず、楽しむことができていた。 ○専科教員やALTのおかげで、楽しく取り組み、英語を使おうとする態度も育っていると思う。 ○児童アンケートによると、外国語に対する肯定的な回答は80%を超えていた。 	
キャリア教育	①地域素材を生かした体験活動を実施することで、キャリア教育の視点を生かしたふるさと学習の充実に務めた。 （将来の夢ややりたい自分がある児童80%）	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者、児童とも将来の夢や希望に対するアンケートはA回答だった。 ○コロナ禍ではあったが、手紙によるやりとり等実施方法も工夫しながら総合的な学習の時間、社会科、生活科等において地域素材を生かした授業実践を行った。
児童指導	①「学業指導の充実に向けて」（県教委）に基づいた、規範意識や基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を適切にしている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に応じて、学校全体で規範意識や生活習慣の指導を行うことができた。 ○学校全体で共通理解を図りながら指導ができた。 ○児童アンケートにおいては80%以上、保護者アンケートにおいては90%近くの肯定的評価となった。
	②教育相談や児童の観察を定期的に行い児童の小さな変化を見逃さず、問題行動の早期発見に努め、児童指導の充実が図られた。 （学校生活が楽しい児童90%）	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に教育相談を行い、児童の悩みの解決を支援できた。 ○「学校が楽しいですか。」というアンケートに対し、児童、保護者ともに90%以上が肯定的な回答をしている。 ▲問題行動に対して指導をしても、なかなか変化・成長が見られない児童がいた。

	③組織的に児童指導に取り組み、関係機関と連携しながらチームで支援ができた。	A	A	A	○児童の問題行動には、児童指導主任、学年間、学年ブロック、養護教諭、管理職他、関係職員で対応し、予防と早期対応に努めることができた。 ○状況に応じて、町教委、町健康福祉課等と連絡を取り合い、問題の解決を目指すことができた。
特別支援教育	①全職員の共通理解の下に、校内支援体制を適切に整備し、特別支援教育についての理解を深め、適切な支援を行った。 ※個々の特性に応じた適切な支援、ユニバーサルデザインによる授業の実施、個別の指導計画、関係機関等との連携			A	○特別支援学級の児童に対しては、特に交流学級の職員と安全面等の配慮を行いながら指導にあたった。 ▲特別支援学級と連携を取り合いながら指導を進めてきたが、ユニバーサルデザインに反して、急な時間割変更等を行ってしまったことがあった。 (保)
保健管理	①児童の心身の健康的な生活習慣確立のために適切な指導管理を行った。 ※日常の健康観察、健康診断環境衛生検査等			A	○外部機関も有効に活用して指導を行った。 ○生活リズムが崩れがちな休日の生活に対し、毎回しっかり事前指導をした。 ▲コロナ禍により保護者会を開けず、直接保護者に対して周知、協力依頼ができず、指導が困難だった。
	②感染症に関する衛生管理マニュアルを踏まえ、健康管理と環境整備を実施し、感染症予防の徹底を図ることができた。			A	○マスク、消毒、換気、3密の回避等を意識して予防を徹底できた。 ○家庭における検温等、保護者の協力を得ることができた。 ▲休み時間等に、一部の児童が密接してしまう場面もあったので、随時指導をした。
	③体力向上プログラムを活用し、個に応じた体力づくりの推奨に努めた。 (新体力テストB以上の児童40%)			B	○持久走や縄跳び運動など、大会を計画することで、児童が積極的に取り組んだ。 ○体力向上プログラムの中の種目を、毎朝の1分間運動に採用して計画的に実践した。 ▲なんとか運動タイムを工夫して実施したが、コロナ禍の影響もあり、思うように実践できなかった。
安全管理	①全職員の共通理解の下に、教職員及び児童生徒の安全対応能力の向上に努めた。 ※危機管理マニュアルの活用、安全点検、避難訓練、防犯教室、交通安全教室 (安全・防犯・防災知識の定着90%)	A	A	A	○自然災害や、不審者対応等、様々な危険・危機対応の避難訓練を内容も検討しながら実施した。どの訓練においても、おしゃべりも無く真剣に取り組むことができた。 ○アンケートの、緊急時の対応に対する質問については、児童が95%以上、保護者が90%以上の肯定的な回答だった。
	②児童の登下校の安全確保に努めている。 ※スクールガードとの連携	A	A	A	○毎日の交通指導やスクールガード、保護者の西小っ子運動等の協力により、今年度も交通事故の被害がなかった。今後も安全指導に力を入れていきたい。 ○保護者からの、スクールガードの方々に対する感謝の声が多かった。 ○児童、保護者ともにアンケートの結果は肯定的な回答が90%以上だった。
	①学校経営方針の具現化のために校務分掌や各主任の役				○コロナ禍という特別な環境の中、教職員が協力して困難に立ち向かい、学校経営方針の具現化のために職務

組織運営	割が適切に機能するように努めている。 ※全職員の参画意識、良好な人間関係と協力体制、情報管理等		A		に励むことができた。 ○産休補充が充当されない中で、協力して教育活動を継続できた。
	②効率のよい業務を行うよう努めている。 (超過勤務時間月 80 時間以下)		B		○超過勤務時間は、若干ではあるが減らせてきている。 ▲仕事量と人員数が変わらないので、勤務時間だけを減らそうとしても難しい。 ▲業務内容の精選が課題である。 ▲勤務時間に対する意識改革が必要である。
研修	①学校課題解明のための授業研究を計画的に行い、授業改善に努めている。 (先生の授業は分かりやすい 80%)		B		○分かりやすい授業の実践を目指して取り組んできた。 ○児童が、考えを出しやすいような工夫を心がけてきた。 ○コロナ禍の中で、オンラインの研修が増えたが、情報教育担当が設定を準備協力してくれたお陰で、受講できた。 ○アンケートの「授業が分かるか」という質問に対しては、児童、保護者とも90%以上の肯定的な回答をしている。 ▲年に1回、授業研究会に合わせて学力向上推進リーダーによる指導や研修が受けられるとよい。
情報提供	①学校に関する様々な情報が、保護者や地域住民に、十分に分かりやすい内容で、かつ適切な分量を提供している。 ※学校だよりや学年だより、学校ホームページの公開等		A	A	○紙ベースの学年通信等は毎月発行し、情報を提供できた。 ○ホームページの充実を心がけた。 ○コロナ禍の影響もあり、緊急時の連絡を一斉メール配信で効果的に行うことができた。 ○「教育活動を適切に伝えているか。」という保護者アンケートでは、95%以上の肯定的な回答をいただいた。 ▲学年によっては、ホームページの更新が少なかったため、今後改善していきたいという意見もあった。
保護者・地域との連携	①保護者や地域への積極的な情報発信や諸活動を通して学校、保護者、地域の連携に取り組んでいる。 ※授業参観、運動会等の学校行事、地域の人材活用、PTAとの連携等		A	B	○コロナ禍という現状において、保護者や地域の方々に満足していただくレベルまではとうてい到達できなかったが、実践の方法を模索し、実現する努力はできた。 1回ではあったが、3密を回避するために、地域別で授業参観を行えた。 ▲感染症対策による行事の実施方法が、他市町や、状況によっては町内でも統一性が無く、疑問を抱く保護者もあった。 ▲様々な行事に対して、「次年度こそは」という実施を熱望する声があった。
教育環境整備	①施設の維持・管理・補修が適切に行われ、教材・教具・図書の整備を適切に行っている。			B	○今年度も施設修繕等に関しては、屋上の雨漏り工事等、町教委、町当局が児童の安全を最優先に考えてくださり、要請後直ちに取り組んでいただけた。 ▲ICT端末等、新たな備品を有効に活用していくためにはどんどん使い込んでいかなければならないと感じた。

5 次年度へ向けて（学校評価を受けて）

(1) 学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を目指して、日々の教育活動を実践しているところではあるが、この指導が100%正解であると言えるようなものを確立できるまでにはなかなか至らない。とは言え、教師側の意図的な働きかけにより、各教科とも「教科の学習は好きだ」という回答が80%に近い、もしくは超える状況なので、この学習意欲を結実させられる方向に導いていきたい。そのためには、さらに多様性を認める発想でいろいろな友人の考えに触れさせ、協働してよりよい考えを構築できる力を伸ばしていきたい。コロナ禍ではあるが、学習指導主任を中心にアイデアを出し合い、対話的な学習を積極的に展開していけるようにしたい。

さらには、その上で、自分の考えや意見を進んで発表できる児童を育成する。

(2) 家庭での読書活動が、昨年に引き続きやや低調である。学校における図書への貸し出し状況や図書室利用状況は十分満足できる状況であるにもかかわらず、保護者の印象としては、読書をしている様子が見えてこないようである。具体的な解決策として、「読書の記録」を週末家庭に持ち帰り、読んだ本について保護者と児童で語り合う「本についての語り合い」や、「親子読書」等、保護者を巻き込んだ読書の時間を設定していくことも考えられる。ICT端末の利便性を活用できるようにすることと同時に、紙と活字の大切さも理解できるようにしたい。

(3) 体力向上に向けた取り組みが思うように進められないでいるが、児童の運動に対する意識はかなり高いものがあるので、持久走大会やなわとび検定等の運動に関する行事・企画をさらに充実させることで、児童の主体性を生かしながら体力の向上を図りたい。

(4) 「効率の良い業務の実践」は、引き続き大きな課題である。昨年度同様次のような方法で解決を目指したい。

一つ目は業務の精選である。学校行事やPTA活動の精選や削減、実施方法の工夫を行ったり、教職員の業務と、他に任せる業務の見直しや依頼等を行っていったりしていく必要がある。

二つ目は、業務の平均化である。教職員個々の特性を生かしながらも、業務がある部分に集中し、偏ってしまうことがないように配慮する。

三つ目は、一人一人の職員の時間に対する意識改革である。全職員が退庁設定時刻を意識して、それまでに取り組みなければならない職務と、取り組める職務を判断し、設定時刻を守ろうと努力することである。

(5) 研修については、現在の感染症の状況にも関連するが、情報収集、伝達、共通理解等によって我々の資質向上に努めたい。

(6) 教育環境の整備においては、何よりもまず児童の安全を最優先に考え、さらには職員の安全、そして教育活動の効率化を上げていく目的で整備を進められるよう、関係機関にも協力を要請していきたい。

以上のような点を中心に、改善を図っていきたい。